

## 第2回 南相馬市復興市民会議 意見のまとめ

### ■会議で挙げられた意見・要望の集約結果

※：第1回市民復興会議と同意見

#### 1. 復興ビジョン・復興計画について

- 南相馬市が抱える特徴的な被災状況を踏まえた計画策定の考え方が必要
- 復興ビジョンの検討の前に、市民の現在の不安を解消することが必要
- 策定スケジュールを勘案し、目標年次に向けた具体的な検討が必要
- 市民が戻ってきたいと思える復興計画にすることが必要
- 市民が安全で安心な暮らしの目標とすることが必要
- 郷土文化の再発見などの取り組みによる人口増を図ることが必要
- 市民が一体となった復興計画とすることが必要
- 復旧と復興の目標設定・役割分担の明確化が必要（※）
- 南相馬市固有の3区の実情を捉えた計画づくり、検討組織体制が必要（※）
- 復興ビジョン策定にあたっての前提条件をはっきり明示することが必要
- 全てに優先されるのは除染
- 具体策を示したロードマップを明示することが必要
- いのちと経済が一体となった環境強制の新しい都市への再生が必要
- ビジョンのスローガン、内容に異論はない
- 基本理念の枠組みは、緊急的、将来、原子力の3項目が必要
- 基本理念に掲げたいキーワード

#### 2. 市民生活環境について

- 住宅に関する生活再建支援が必要
- 戻ってくるため、安心して生活できる環境整備・生活に対する情報提供が必要
- 日常生活に関する対応は横断的でスピーディな対応が必要
- 避難生活での足の確保が必要
- 市民生活に安心・安全と心の安らぎ、楽しみ、地域の絆が必要
- 図書館開館が必要（※）
- 市民サービスの向上が必要
- 主要施策に「医療」の柱を盛り込むべき

#### 3. 地域経済について

- 生活の基盤をなす地域経済と雇用の確保（※）
- 地域経済の復興を地域で支えるしくみが必要
- 事業を継続するための支援が必要
- 漁港関係者の意向をふまえた施設復旧が必要（※）
- 逆転の発想による地域経済復興が必要
- 新技術を導入した農業振興が必要
- 復興のための資金が必要
- 義援金を使った南相馬市ファンドを設立することが必要

#### 4. 都市基盤について

- 生活できる都市基盤整備が必要
- 早急にがれきを撤去することが必要
- 地震・津波被害からの復旧・復興が必要
- 移動のための道路の復旧が必要
- 放射線の除染も含めた都市基盤整備が必要（※）

#### 5. 原子力対策・防災について

- 緊急時避難準備区域の解除に伴う準備が必要

## 6. 教育・子育て環境について

- 子どもの環境を守るための学校の除染・復旧・メンタルケアなどが必要（※）

## 7. その他

- 若い年代も含め市民意向を反映することが必要
- 会議資料の事前送付が必要
- 復興会議の目的に沿った話し合いが必要
- 会議の途中経過も開示した市民一体となった復興会議を期待

## ■会議で挙げられた各種意見・要望

注)・：会議での意見

☆：会議後の意見募集シートによる意見

※：第1回市民復興会議と同じ意見

### 1. 復興ビジョン・復興計画について

#### ○ 南相馬市が抱える特徴的な被災状況を踏まえた計画策定の考え方が必要

- ・南相馬市は、地震津波災害と原発事故という難しい問題を抱えており、復興の流れ、時間を整理する必要がある。原発事故の収束とともに復旧・復興が進む。(築瀬委員提案)
- ・復興の進め方、時間的なイメージを明示してほしい。
- ・市民が戻ってこようとする初動期の後、復興するという考え方を示してもらった。難しいのは津波被害からのまちの復興だろう。

#### ○ 復興ビジョンの検討の前に、市民の現在の不安を解消することが必要

- ・復興ビジョンは将来的なものとはわかったが、現時点では、心情的に復興ビジョンは描けない。
  - ①原子力災害による区域設定、放射線の量、緊急時避難準備区域の一部解除やその時期と対応、除染
  - ②がれき撤去
  - ③人が戻って来ることができる環境整備と市の人口
- ☆目の前に問題が山積している中、将来を考えられないのは当然。「明日(将来)へつながる復旧」を盛り込むと、皆、納得できるのではないか。

#### ○ 策定スケジュールを勘案し、目標年次に向けた具体的な検討が必要

- ・12月までの策定、目標は10年後という中で、検討を進めていく。小高区については時間を要すると考えている。(事務局)
- ・現段階で人口を想定するのではなく、新たな市民を呼び込むという発想も必要。多くの市民を呼び戻したい。(市長)
- ・県の復興会議で示した以上に具体的な検討をする必要がある。
- ・人口は、できる限り多くの人口であるべき。
- ・エリアは原子力災害の区域設定を考えたものになるのだろう。小高区についても、市民が帰って来ることができる町にすべき。
- ・中越地震や阪神淡路大震災など参考にすればよい。5ヵ月後には計画ができている。この会議で具体的な検討をすべき。

#### ○ 市民が戻ってきたいと思える復興計画にすることが必要

- ・従前の生活を取り戻す。戻りたいと思うような復興であってほしい。
- ・市外に土地を買って出ている人もいる。子どもが転校すると、帰ってこられなくなるという現状もある。

○ 市民が安全で安心な暮らしの目標とすることが必要

・南相馬市民が安全で安心な暮らしができるような目標とする。

○ 郷土文化の再発見などの取り組みによる人口増を図ることが必要

・郷土文化の再発見と推進といった移民施策を積極的に取り入れ人口増を図る。

○ 市民が一体となった復興計画とすることが必要

・合併して5年が経ちました。市民が一体となったまちづくりをしていく必要がある。

○ 復旧と復興の目標設定・役割分担の明確化が必要（※）

・復旧と復興は分けて考えるべき。

・復旧はそのままがんばっていけばよい。復興については減災の考え方が必要ではないか。

☆再度災害による被害を防ぐ事を目標とし、それに沿った復旧を行う事が必要。

○ 南相馬市固有の3区の実情を捉えた計画づくり、検討組織体制が必要（※）

・南相馬市が3区の特異な状態に分断されたので、各地区に適合した施策が必要。

○ 復興ビジョン策定にあたっての前提条件をはっきり明示することが必要

☆放射性線に関する健康と教育環境の整備をいつまで、どのようにするか明確に。

☆交通アクセスをいつまで、どのように回復させるか明確に。

☆スピードの必要なものと、時間をかけて実現するものとの順序を明確に。

○ 全てに優先されるのは除染

☆どのような基本理念を盛り込もうとしても全てに優先されるのは除染。

☆子どもの環境を守るためには、学校だけでなく、子どもが最も多い時間を過ごす家庭の除染も同時並行で行わなければ意味がない。

○ 具体策を示したロードマップを明示することが必要

☆具体策がどうつくれるかがポイント。プロセスを明確にしたロードマップをしっかりと示すことが肝要。先が見える実行性のある計画づくりを明示してほしい。

☆具体的な方法については、市民からのアイデア募集、人材の公募による市民参加を進めることを要望する。

○ ビジョンのローガン、内容に異論はない

・ローガンにあるとおり、南相馬市に戻ってきたい、生活したい。

・ビジョンは内容的にはすばらしいと思う。

☆事務局案に賛同する。避難者は、戻りたくても戻れない、残っている方々から後ろ指指されている現実もあることから、心のよりどころを求めていると思う。

○ いのちと経済が一体となった環境強制の新しい都市への再生が必要

☆南相馬市を再生特区と位置づけ、自然環境・生活・経済の全てを再生させるための全包括的な施策を行い、いのちと経済が一体となった環境共生の新都市に再生する。

○ 基本理念の枠組みは、緊急的、将来、原子力の3項目が必要

☆「緊急的な対応」、「将来に向けた対応」、「原子力対応」の3つのカテゴリーに分けるのはいかがか。

### ○ 基本理念に掲げたいキーワード

☆「新たな取り組み」、「新たな産業の創出、活力」

☆家族が共に暮らせる安心安全なまちづくり

☆地域の絆の復興、再生

☆いのちと経済が一体となったエコタウンの創出

☆復旧、復興を超えた地域再生を目指そう

☆原子力災害の克服が南相馬市に新たなステージを創りだす

## 2. 市民生活環境について

### ○ 住宅に関する生活再建支援が必要

- ・家が流されたという中、もう1度、家を建てられるのかという心配がある。
- ・屋根の応急処理をしていないので、畳にキノコを生えていました。応急処理としてブルーシートといった、建物に関する応急措置が必要。
- ・子どもがいる、年寄りがいるから借り上げはだめでという状況で、将来を語ることはできない。

### ○ 戻ってくるため、安心して生活できる環境整備・生活に対する情報提供が必要

- ・仮設住宅、水の問題がある。市の対応にばらつきがある。不満が多くて、若者が住めないというイメージがある。水は安全なのかどうか。
  - ・市は、今、何をやっているのか、何をやっていないのか、生活情報の基本的なところを伝えてほしい。
  - ・水や野菜などの放射線に対する安全性を確認してほしい。
- ☆水や土の放射線を早急に調べて市民に知らせてほしい。
- ☆衣・食・住の安心、安全に努める必要がある。
- ・住宅に入るのにも、子どもがいるとだめとか、高齢者がいるとだめとか、市民の立場にたっていないのではないのではないか。
  - ・市に行って明確な情報がもらえないためストレスがある。市民目線で、安心できる情報発信をしてほしい。
  - ・鹿島区の避難所では、保証金のこともあり小高区と鹿島区の人たちと一緒にできないという話もある。
  - ・阪神大震災の際は自殺する方が増えたという。避難所に通っている人もいる人の中には、支援物資を何度も運ぶ人もいる。市民の視点で考えてもらえたら、どうにかできるのではないか。
  - ・とにかく、戻られる環境にするためには正確な情報を提供してほしい。
  - ・東京から南相馬市には車でしか来られない状況である。JRの開通については、3～5年かかるといいます。せめて、情報を得るための活動は行ってほしい。いろんな情報のうち、正しい情報を提供してほしい。

- ・南相馬市災害対策本部の内容が新聞に出て、避難計画についてはホームページでという話だったが、ホームページにはなかったようだ。
- ・パソコンがなくなっているので、情報は紙媒体でも必要。

#### ○ 日常生活に関する対応は横断的でスピーディな対応が必要

- ・市民のストレスが爆発してきている。緊急課題として対応してほしい。
- ・困っていることが多い。市全体で対応してほしい。
- ・南相馬市の誇りをもった対応をしてほしい。
- ・市民が安心した形で住めるように、落ち着いて住めるように、完璧でなくても、丁寧な対応をお願いします。市が一生懸命やっても伝わらないのはどうしてか。
- ・市民が直面している生活の問題は、別枠で対応してほしい。
- ・復興ビジョンは良いプランであると思うが、まず、生活の復興するためにチームで対応してほしい。

#### ○ 避難生活での足の確保が必要

- ・鹿島の仮設住宅を見に来てほしい。移動する足がない人もいる。

#### ○ 市民生活に安心・安全と心の安らぎ、楽しみ、地域の絆が必要

- ・避難生活をしていると、地域の絆が断絶していると感じる。コミュニケーションの場がなく、どんどん引っ込み思案になってくるような気がする。
- ・行政は、市民の方々の心のケアを考えてほしい。
- ・図書館や文化会館を開館してほしい。市民の憩いの場をつくり、心をケアすることは大切。
- ・市民活動サポートセンターではボランティア活動をする方の活動の場だが、ボランティアだけでなく、地域の絆をつなげるために市民（人）のつながりが重要。
- ・心が安らぎのある場がほしいです。
- ・仮設住宅がつくられ、ゲートボール場がなくなっている。ストレスのせいか、飲んであばれたり、車を傷つけたりする人も出てきている。もともと広い家に住んでいた人が狭い仮設住宅に住むことでストレスを抱えている。
- ・自助、共助、公助という言葉がある。共助という観点で考えるべき。

#### ○ 図書館開館が必要（※）

- ・図書館や文化会館を開館してほしい。市民の憩いの場をつくり、心をケアすることは大切。（再掲）

☆図書館の開館を望む市民の声が多い。

#### ○ 市民サービスの向上が必要

☆住民定着化と人口増のための市民サービス（医療、教育、福祉、文化）の充実が必要。

#### ○ 主要施策に「医療」の柱を盛り込むべき

☆3区ごとに地元開業医が一ヶ所にテナントとして入居する「(仮) ホスピタルモール」の設立など、高齢化と子どもを持つ世代にとっての問題解決が図れる。

### 3. 地域経済について

#### ○ 生活の基盤をなす地域経済と雇用の確保（※）

- ・復旧しながら、一定の雇用を確保していくかが課題。知恵を集めて、モデルをつくり、それを実験しながら進めることがよい。
- ・働く場所がない。

#### ○ 地域経済の復興を地域で支えるしくみが必要

- ・牛肉にしても、鹿島のものを地産地消にしていきたい。

#### ○ 事業を継続するための支援が必要

- ・津波については、東日本沿岸域で震災の被害を受けている。南相馬市は、加えて原発事故の影響を受けている。事業計画も立てられないため、資金繰りも難しいのが現状。
- ・実際問題としては、従業員を呼び戻せない。小さな子どもを抱えていると、戻りたくても戻れないという人もいる。優秀な人材が流出してしまうということもある。
- ・人口が半分以下になっている状況で、商店が元通りの商工活動ができない。

#### ○ 漁港関係者の意向をふまえた施設復旧が必要（※）

- ・松川浦（相馬市）を拠点的に整備するという話がある。南相馬市においても防波堤の整備、住宅の整備を行ってほしい。漁業者は、海のそばでなくては仕事ができない。
- ・鹿島漁港は唯一の漁港なので整備してほしい。

#### ○ 逆転の発想による地域経済復興が必要

☆冷静かつ客観的に以前の南相馬市に戻す「復旧」は困難。それならば、逆転の発想により、放射線で汚染された地域の特殊性を逆手にとり国際的な除染の研究所や企業、放射線医学の研究所を誘致し、新たな産業と雇用創出を図りたい。

#### ○ 新技術を導入した農業振興が必要

☆新技術を導入して、土地の有効活用・民間投資の促進、ソーラーグリッド構想、農業振興などに取り組む。

☆葉の花プロジェクトで土壌改良と菜種油を活かしたバイオディーゼルのエコ循環に取り組む。

#### ○ 復興のための資金が必要

- ・復興のためには多くの公的資金が必要。また、地元での雇用を確保する必要もある。

#### ○ 義援金を使った南相馬市ファンドを設立することが必要

- ・義援金を南相馬復興ファンドとして、復興を願う市民や全国から出資を募り、事業募集し、配当してはどうか。

例) 除染事業、がれき撤去事業、再生エネルギー事業、植物工場、放棄地・被災農地活用事業、放射線研究活動事業 など

## 4. 都市基盤について

### ○ 生活できる都市基盤整備が必要

- ・戻るためには、インフラの整備が必要。水道もない、お医者さんもない、スーパーもない。とにかく、スピーディな対応をお願いする。

### ○ 早急にがれきを撤去することが必要

- ・がれきを盛土にするなど、早急に第1次の復興ビジョンで取り組んでほしい。
- ・がれきを早く処理してほしい。

### ○ 地震・津波被害からの復旧・復興が必要

- ・防波堤の整備、住宅の整備を行ってほしい。
- ・減災の精神がないといけない。安全で安心なまちにするために、防潮堤は必要。
- ・津波被害に関しては、9割の補助がでるようだ。早急に事業スケジュールを組んでいかないといけない。
- ・地域は、安全であることが前提。津波、地震の被害で危険な状況があると聞いている。まずは安全を確保してほしい。

☆防波堤の復旧はどこまで進んでいるのか。

### ○ 移動のための道路の復旧が必要

- ・車による移動ができない道路があり、生活に支障をきたしている。

☆道路網（アクセス）整備を国直轄で促進する。

### ○ 放射線の除染も含めた都市基盤整備が必要（※）

- ・放射線の問題をできるだけ早く対処してほしい。

☆放射線対策をインフラのひとつと位置づけ、恒久的な施設を作り対応すればよいのではないか。

☆現在、ホットスポットに対応する施策を至急に講ずる必要がある。

## 5. 原子力対策・防災について

### ○ 緊急時避難準備区域の解除に伴う準備が必要

- ・8月に解除される可能性がある。それまでにどのような手順で対応するか、考えておく必要がある。
- ・緊急時避難準備区域の解除について、どのように考えていくか検討していく必要がある。
- ・緊急時避難準備区域が解除されるようだが、安全・安心な状況での対応をお願いしたい。

## 6. 教育・子育て環境について

### ○ 子どもの環境を守るため、学校の除染・復旧・メンタルケアなどが必要（※）

- ・表土の除染しか出てこないが、中通りや郡山市のように建物全体を全て除染していく必要がある。安全な校舎になるよう、除染してほしい。
- ・除染しても、その物質をどうするか、解決策がないのでは困る。できるのであれば、線



量が高い処分場をつくってほしい。

- ・小学校の前に船がたくさんあります。子どもたちの心のケアのためにも、校舎の前はなくしてほしい。

## 7. その他

### ○ 若い年代も含め市民意向を反映することが必要

- ・無作為抽出とのことだが、若者たちの意見も取り入れるべき。

### ○ 会議資料の事前送付が必要

- ・今日話し合うことがどんなことか理解して臨みたいので、資料を事前に送ってほしい。

### ○ 復興会議の目的に沿った話し合いが必要

- ・復旧と復興に分けた話し合いをすべき。
- ・議題目的に絞った内容を明確にして話し合う方がよい。
- ・区毎の話し合いがあればよい。

### ○ 会議の途中経過も開示した市民一体となった復興会議を期待

- ・復興会議の途中経過も情報開示して、市民がリアルタイムで参加している感覚を持てる会議の進め方、情報公開等に工夫が必要ではないか。
- ・一部の限られた人が決めているという感じをなくすことが市民一体となった復興には欠かせない。